

HUG-K-UMI



育 はぐくみ 海

retreat free school

2021 年度 事業報告

離島留学アンケート（実施人数3名）

離島留学は如何でしたか？

3件の回答

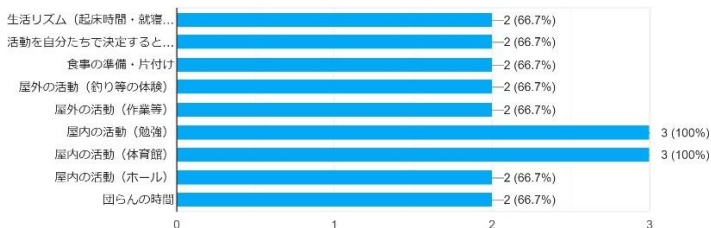


- 非常に良かった
- 良かった
- 普通
- 悪かった
- 非常に悪かった

ほんとうに良かったと思えるのは、自分でここを選んできたということ。

離島留学中の活動でよかったものは何ですか？（複数回答有）

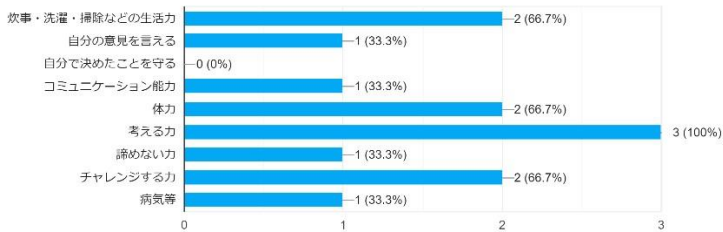
3件の回答



屋内の空間にあるものはなにか。そこには団らんや交流というふれあいがあった。

離島留学中に成長（改善）したと思えることがありますか？（複数回答有）

3件の回答

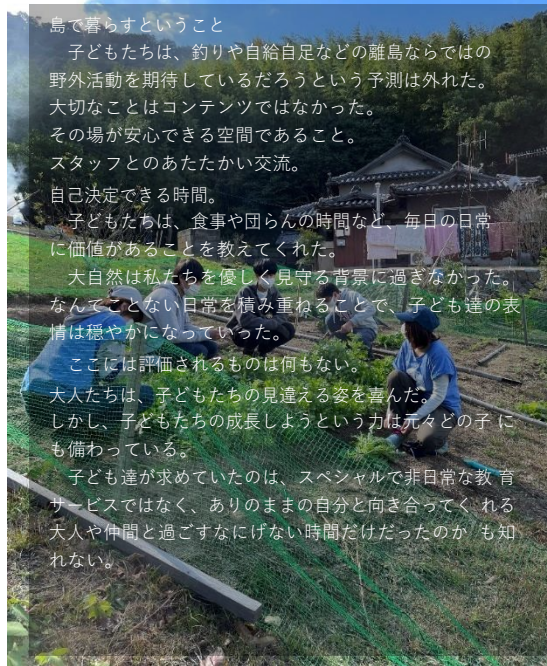
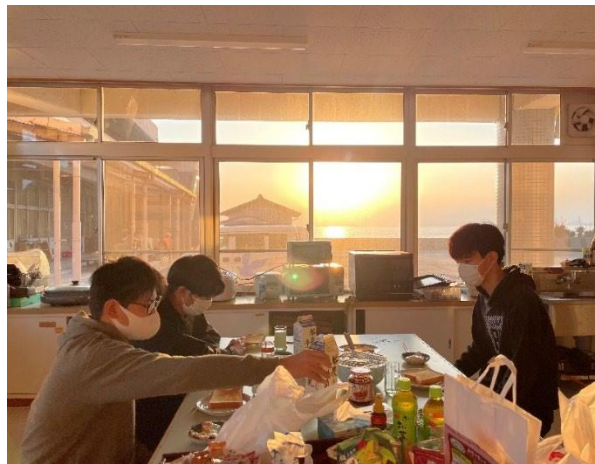


「自分で決めたことが守れない」を評価する必要はない。考えて修正すればいい。

利用実績データ（2021/4～2022/3）

利用者数：217人（スタッフ含延人数） / 児童生徒数：101人（延人数） / 平均 2.6人
登録スタッフ数：20名

コロナによる活動停止 期間：合計約 100 日間



なんにもない島の

なんでもない時間が
なんてことない日々に。



p. 2 2021 年度活動報告

p. 4 週末通学コース

p. 7 学習サポート

p. 8 離島留学コース

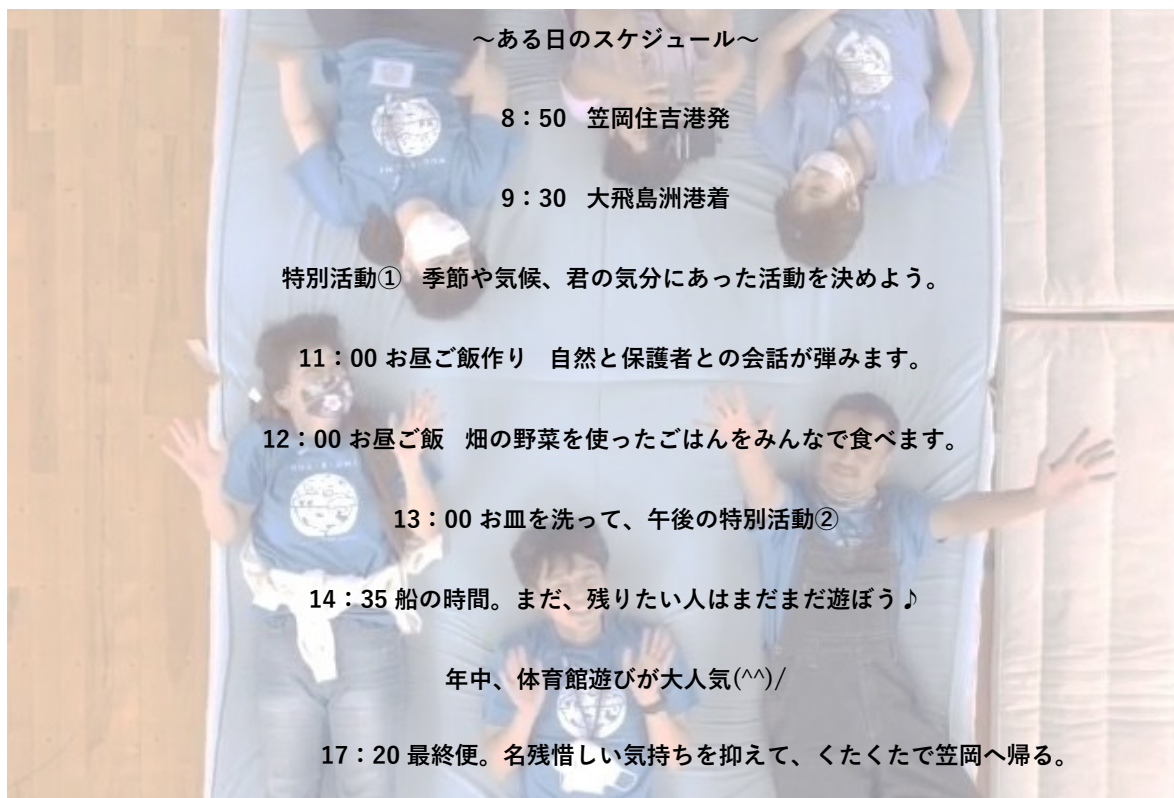


週末通学

A special day that only you know.

土曜日・日曜日の日帰りコース。（※第3土日は定休日）
感染症対策として、1日3組限定。要予約
2021年度：登録生徒16名（離島留学経験生徒も含む）

島まるごと、学びのフィールド



～ある日のスケジュール～

8:50 笠岡住吉港発

9:30 大飛島洲港着

特別活動① 季節や気候、君の気分にあった活動を決めよう。

11:00 お昼ご飯作り 自然と保護者との会話が弾みます。

12:00 お昼ご飯 畑の野菜を使ったごはんをみんなで食べます。

13:00 お皿を洗って、午後の特別活動②

14:35 船の時間。まだ、残りたい人はまだまだ遊ぼう！

年中、体育館遊びが大人気(^^)／

17:20 最終便。名残惜しい気持ちを抑えて、くたくたで笠岡へ帰る。

育海は『ここが在る』という安心感を与えてくれました。そして先生やスタッフの方々の優しく包みながらもみてないふりして、実はじっくり見守ってくださる雰囲気。貝殻を拾ったり、絶景ポイントを案内してもらったり保護者としても思いやりの詰まった体験をさせてもらって生き返ったような感動を与えてもらいました。大自然の中でいつも命を頂いているカワハギやフグ、カサゴ、牡蠣などを釣ったり友達にわけてもらったりして、家でペットとなり何ヶ月も飼い、鱗の色の変化、表情の豊かさ、命の尊さを知りものすごく感動しました。育海で素晴らしい体験ができました。子どもの意欲が向上して眼が輝いていたのが側で見ているとしみじみ嬉しかったです。【中学生保護者】

HUG-K-UMI's member comment

先生たちと遊ぶのが楽しみ。

【小学生】

自由にさせてくれるところが好き。開放的な場所。堂野先生がフレンドリー！

【小学生】

はぐくみは、私達の大丈夫な存在です。いつもそこに居てくださってありがとうございます♡【小学生保護者】

景色に癒やされ、心が元気になる場所でした。もっとスタッフの方と仲良くなり、たくさんお話したいです。【中学生保護者】

育海は、君を大丈夫にしてあげる場所ではない。
育海は、君の大丈夫な場所になる。

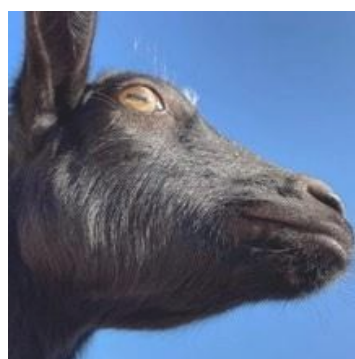


HUG-K-UMI's member comment

中学校 3 年間不登校。高校は、全日制も通信制も続かず退学。そんな中、出会った日置先生は、娘が唯一心を許した先生でした。今までどんな先生も拒否してきたのに、自主的に勉強に取り組み、中学も高校も不登校の娘には無理かと思われた高卒認定試験では受験科目すべて合格することができました。先生と出会えたことで、娘が将来を前向きに捉えられるようになったのだと思います。娘のペースに合わせて一緒に伴走してくださる先生方に心より感謝しています。【高校生保護者】

娘は育海のこと大好きです。お兄ちゃんについていく形で参加していましたが、今では娘の方が毎週行きたいと言うくらいです。飛島の自然と堂野先生をはじめ、スタッフの皆様のことが大好きなのだと思えます。自宅では、ゲームやYouTubeばかりでも、島に行ったときは様子が全然違います。自然と生き物が大好きな彼女にとって、飛島は大好きなものの宝庫みたいです。かわいい子ヤギの散歩をして、畑の横でカニをとり、釣りをして魚を観察、帰りの船を待つ港でもずっと生き物を探しています。自宅に帰ってからも、飛島で拾った色とりどりの貝殻を見るたびに、飛島のことを思い出しているようです。【小学生保護者】

緊張のドキドキが、いつの間にかワクワクに。



兄弟で登録しています。それぞれが世界を持っている反面、周りの子と同じことをするのにスムーズにいかないときもあります。子どもたちにとって育海は学校以外に『先生』と呼べる大人がいて、大人の意思にコントロールされない場所なのではないかと思います。社会に、そんな大人がいて下さることが、親としては救いです。【小学生保護者】

HUG-K-UMI's member comment

こじんまりしていて、とても居心地が良かったです。先生みんなが優しく、いつでも受け入れてくれている感じがして、とても良かったです。今は地元の小学校に行くことをがんばっているけど、またはぐくみに行ったときは一緒に遊んでほしいです。【小学生】

みんなが学校に行っているのに
家にいると罪悪感があった。

(18歳女性 高卒認定試験サポート)

平日の昼間はそんな気持ちになる。小6の冬から学校に行かないという選択肢ができた。中学校も高校もほとんど行ってない。学校に行かなくなってから、「人とコミュニケーションをとるのが億劫だ。」という気持ちが浮き彫りになった。

焦りとかは無くなった。
心に余裕ができた。

高校は全日制から通信制へ環境を変えた。どちらもあまり登校していない。辞める決断をした。その時、高認を取ろうと決めた。学校に行かないし、今やりたいことがあるわけでもない。迷子になっていた感じ。高認を取るという明確な道筋ができた。

「間違い」とか「正しい」とか
考えずに、自分の好きにしたら良い。

彼女の芯の強い所は、実は幼いころからあまり変わっていない。きちんと自分のペースを守って過ごしているだけだ。勉強も、自分で調べ、分かるまでとことん考え、咀嚼して自分の中に落とし込む。丁寧に、確実に、身につけていく力を元々持っていたのだ。

進学したいと言って、それを
応援してもらえる環境って幸運
なんだなって思った。

自分にとっての当たり前が、社会全体に目を向けたときに違うこともあると気づいた。過去を振り返ってみて、自分の決断に後悔は無いと言う。部屋で過ごす時間もかけがえのない大切な時間だったそう。自分のことを、置かれている環境に関係なく一人の人間として見守ってくれた両親に感謝している。彼女にとって、高認は目的ではなく自分らしく生きていくための通過点にすぎないのだ。

学習サポート

My joy is developing your strengths.

[不安]もまるごと
エネルギーに変える。

—学習サポートの例—

●週末通学コース

- ・活動時間内での学校の宿題サポート
- ・プリントを使った、単元別指導

●離島留学コース

- ・学習習慣のコーディネート
- ・プリント、教材の用意
- ・週に1、2回の講義

●提携学習塾での学習

島での活動時間以外でのサポートが必要な場合、提携学習塾への通塾が可能。高卒認定試験のサポートも可能。

〈岡山県〉

結ゼミナール鴨方教室
(浅口郡里庄町里見 5301)

〈広島県〉

教文ゼミナール千田教室
(福山市千田町3丁目 35-18)

2021年度：

高等学校卒業程度認定試験サポート 1名

離島留学

The one and only story for you.

[暮らす] のすべてが
学びのコンテンツ

- 2021年11月～2022年3月
- 中学生男子4名
- 高校生男子1名
(岡山県内2名・県外3名)

1週間～5カ月間の島暮らし。
身の回りの家事も、作業も
初めての挑戦ばかり。

ルールは「話し合い」で決める。

いろいろあったけど
ここに来て良かった。

香本 悠真さん

中学2年生。5カ月間の離島留学中。小学生のころから、学校に行かない時期があった。「引きこもりだった」と笑いながら言う。学校に行かないことで、家族とぶつかるときもあった。いろんな場所にも行った。いわゆる不登校児の集まる場所。そこで会う人々とのご縁も素敵なものだったそうだ。

やわらかい雰囲気で、
強要しない形だったのが
安心できた。(父)

山や島が好きだ。山や島がある島の自然環境は彼の理想だった。活動はどれも好んで取り組む。彼のお気に入りには、それだけじゃない。仲間やスタッフとの何気ない日常やこたつでまったりする時間もかけがえない瞬間が詰まっている。

したいことがたくさんある
から早く起きる。

離島留学の生活のスケジュールは自分たちで決める。だから、何時まででも寝ていてもいいのだ。しかし、彼は毎日7時には必ず起きる。日の出とともに、朝ごはんの準備を始める。もちろん、片付けも掃除も洗濯も自分のことは自分で行う。そんな日々を彼は「幸せ」と言う。

だから、がんばろう
って思えた。

勉強は嫌いだった。中学校の勉強をほとんどしていないから、進学という未来は全く見えなかった。自分の中で、いつも不安と向き合い、整理するの繰り返し。今、彼は毎朝1時間以上勉強に取り組んでいる。前よりも、ぼんやりとだけど未来を見つめられている実感があるようだ。

楽しいところです。
行けば分かりますよ。
不登校じゃなくても、
心が豊かになる。(父)

彼は、島民から大人気だ。お手伝いやお呼ばれには喜んで向かう。おやつやおかずもたっぷりもらう。温かい空気に包まれる。左右されるのは、天気だけに。

言葉は関係ない。なんぼ声
かけられても、聞けない。

ふと、「過去の自分になんて声かける？」と聞いた。言葉より行動が大切らしい。自分の人生を、より魅力的にコーディネートするために、離島留学を選択した。自分の選択に後悔は少ないと言う。今日も、晩御飯のメニューを悩んで、マイブームの卓球をして寝るだけだ。

一歩み

がんばれない自分には価値が無いと
絶望していた。

心の中で、いつも「がんばりたい」と
願っていた。

周りの人も、いつも「がんばれ」と
口にした。

やっぱりわたし
がんばれていないように見えるんだな
って思った。

笑顔で迎えてくれる場所ができた。
調子が良いときも、悪いときも
いつでも変わらない笑顔だった。

「がんばろう」って
思えた頃には、

もう手が動いた。
すぐ足が動いた。

描いていたように、歩んできた。

信じて、見守ってくれていて
心からありがとう。

だから、知っているんだ。
君がいつも考えていることを。

育海と出逢ってくれて、
本当にありがとう。

育海 統括 日置 幸

ーある日の過ごし方ー

6:30 起床・朝食作り
7:
30 朝食
7:
45 掃除

8:05 定期船見送り
ヤギのつむじを外へ出す

8:20 勉強
9:
20
定期船迎え・いのししの異見回り

11:00 活動（畑、釣りなど）

12:00 昼食
13:
00 活動
（島の季節の行事、島民の手伝い）

17:20 定期船見送り
つむじを小屋へ戻す

18:00 夕食

19:30 日誌を書く
20:
30 入浴
22:
00 就寝

勇気がでる。

ゆっくりしたら、元気がでるよ。

永田 航司さん

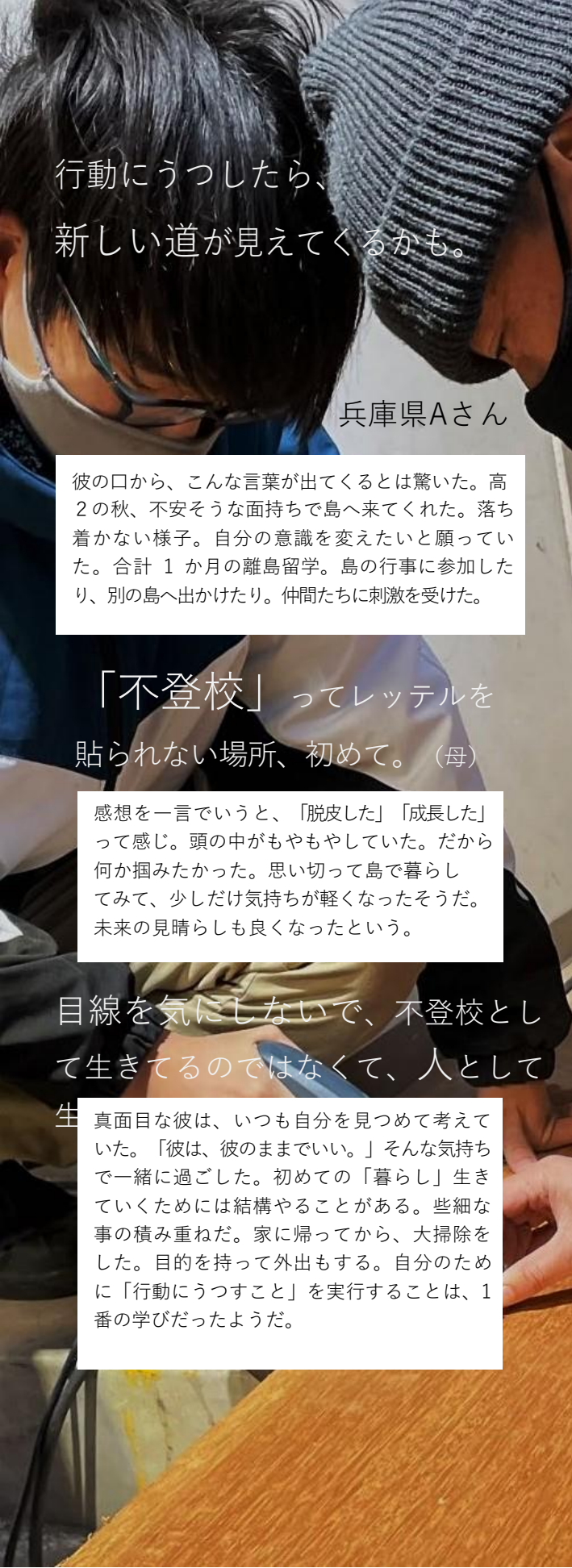
僕にとって育海は気楽に自由に楽しめる場所です。そう話してくれたのは中学1年生の彼。彼は、小6の秋から学校に行かなくなった。父の誘いで、飛島を訪れる。「また来たい。」と言った。元気がなく、外出も気が向かなかった。

元気がなった。何事も前向きな気持ちになったかな。(父)

生活の営みのほとんどは初体験。慣れない家事も初めての場所で仲間と一緒に過ごした。期間の延長を自ら申し出て、合計1か月間の飛島での生活。家でも、家事をするようになったのだとか。

やっぱり環境。スタッフや島民のみなさん、仲間との時間。穏やかな気持ちになれる。離島留学に行っていなかったら学校には行っていなかった。(父)

新学期から自分のペースで登校し、学校生活を楽しんでいるようだ。「英語頑張らないと！」テスト間近、頼もしい表情で意気込む。最初は不安を抱きかかえながら、飛島に来てくれたご家族。出逢えた私たちも勇気をもらった。



行動にうつしたら、
新しい道が見えてくるかも。

兵庫県Aさん

彼の口から、こんな言葉が出てくるとは驚いた。高2の秋、不安そうな面持ちで島へ来てくれた。落ち着かない様子。自分の意識を変えたいと願っていた。合計1か月の離島留学。島の行事に参加したり、別の島へ出かけたり。仲間たちに刺激を受けた。

「不登校」ってレッテルを
貼られない場所、初めて。(母)

感想を一言でいうと、「脱皮した」「成長した」って感じ。頭の中がもやもやしていた。だから何か掴みたかった。思い切って島で暮らしてみても、少しだけ気持ちが軽くなったようだ。未来の見晴らしも良くなったという。

目線を気にしないで、不登校として
生きてるのではなくて、人として
生

真面目な彼は、いつも自分を見つめて考えていた。「彼は、彼のままでいい。」そんな気持ちで一緒に過ごした。初めての「暮らし」生きていくためには結構やる必要がある。些細な事の積み重ねだ。家に帰ってから、大掃除をした。目的を持って外出もする。自分のために「行動にうつすこと」を実行することは、1番の学びだったようだ。

ー結びー

僕が不登校になったとき、
たくさんの大人が

「学校に行っていない僕」
と向き合ってきた。

僕にとって、
不登校の原因や対応
なんかどうでもよかった。

大人は僕のタイミングを待ってはくれない。
大人は僕を信じてくれない。
僕はそんな大人たちに心を閉ざした。

そして僕は大人になった。
でも僕は知っている。

子どもたちは
自分で考える力を持っている。

子どもたちは
自分で行動する力を持っている。

子どもたちは
自分で決断する勇気を持っている。

だから育海はなにも与えない。
子どもたちと一緒に過ごしているだけ。

そんな育海を必要としている人がいる。
そんな育海を応援してくれる人がいる。
育海もみんなの想いで成長していく。

育海 代表 堂野 博之



フリースクール 育海 **HUG-K-UMI**

Supported by  **日本 財団 THE NIPPON FOUNDATION**